

女性教職・牧師夫人のサポート情報誌

WOMEN IN MINISTRY

巻頭言

『必ず実を結ぶ教育牧会』

教育牧会(Educational Ministry)という言葉をご存知でしょうか？
教育牧会とはキリスト教教育を通して信徒を「キリストの人格と行い」に似る者とする働きです。すなわち信徒の品性と行いがイエス・キリストのようになり、神の栄光を表すように導く働きなのです。

教育牧会は大宣教命令 『それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。』マタイ28:19-20の『わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。』というキリスト教教育の原点となる言葉を実践し牧会することです。

キリスト教教育は「人間中心」の教育ではなく、「神中心」の教育であるため、神の言葉を教え、キリストの内にあって「真のいのち」を持てるように教育することが求められます。神と人との正しい関係から始まるキリスト教教育が効果を発揮するためには、実際の働きをする牧会者の役割がとても重要です。すなわち聖書に基づいた正しい教えによって信徒が神の御言葉を更に知り、その御言葉が啓示する神の御心をしっかり行えるよう指導する牧会者の努力が必要なのです。

牧会者は、神の民が神との正しい関係を持ち、その中で真の生きる価値を見出すだけでなく、成長し続けるよう、絶えず指導と教育を努めなければなりません。

聖霊様は宣教の助け主です。私たちが牧会者として大宣教命令に従い使命(命を使う)を果たすとき、宣教の助け主である聖霊様の大きい力を体験することでしょう。なぜなら教育牧会は必ず実を結ぶ主から命じられた宣教方法だからです。

…主のおしえを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ。
その人は、水路のそばに植わった木のような。
時が来ると実がなり、その葉は枯れない。
その人は、何をしても栄える。 詩篇1:2, 3

西宮アガペー教会
趙 善江



目次

02 室長コラム

「準教師制度の目的」「MM33とは」

03 室員たちのコロナ体験談

04 学びのコラム

「メルケル元首相に学ぶ女性のリーダーシップ」



✦ 準教師制度の目的 ✦

教団総会で来年度の教団方針案が審議されました。教団総会で承認された方針案の中から「準教師制度」についてまず説明したいと思います。

教団のこれからの宣教戦略の第一に伝道が掲げられています。祈り、聖霊に満たされて伝道することに始まり、相互協力による伝道、続いて「信徒の登用と任用」の中に仮称「準教師制度の導入」が出て来ます。

かつての教職制度では準教師～補教師～正教師となる道筋がありました。名称が同じで理解しにくいのですが、今回提案されるものは教職ではなく信徒の登用に関係します。教職制度に準ずる制度なので、準教師とのことです。

目的は更なる伝道推進の一環として信徒の賜物が活かされるための対応です。

所属教会の役員会の議を経て、主管者の推薦を受け、認証委員会の審査を経て理事長の認証を受けると「準教師」となります。推薦には条件がありますので総会資料にある準教師施行細則案をご覧ください。

指導や責任は主管者である牧師が行います。準教師は主管者の指導と許可のもとで伝道・信仰教育・説教・牧会等を扱いますが礼典は執行できません。所属教会、また担任教師がいない教会に派遣され、派遣された教会で「先生」と呼ばれることがあっても立場はあくまでも信徒です。

準教師を長く続けても自動的に教団の教職にはなれません。但し、教職となる道筋を経ればもちろん教職になれます。所属教会が変われば、移動先の教会の推薦と教団の認証が無ければ準教師ではなくなります。

このような信徒の賜物が活かされる機会を広げようという取り組みです。

✦ MM33とは ✦

続いて「MM33」について説明します。今年2月発行の海外伝道ニュース(教団HPにも掲載あり)の記事、また教職情報専用サイトでもドミニク・ヤオ師が説明して下さった動画を視聴できますので是非ご覧ください。

「MM33」は世界AG大会が提唱して日本AGも参加して行こうとする活動です。Mはローマ数字の千を表す文字なのでMとMで2千。またMは命令(Mandate)、宣教(Mission)のMでもあり「主の命令、私たちの宣教」となります。主が昇天して2000年目となる2033年までに、世界で37万ある教会を100万教会に、全世界的な拡大により1億人の信徒を目指す大きな宣教ビジョンです。

「伝道により多くの方が主を知る、教会が生まれる、弟子化が始まる、更なる祈りに向かう」と言っても各国の課題は異なります。そこで自分の国の課題を分析し新しい方策の導入・推進がなされます。

教会開拓と言う言葉も各国により定義が異なります。新規開拓/枝教会/家庭集会/オンライン活用等、主を信じる人の集まりである「教会」が様々な形で生み出されて行くように教団、教区、教会が協力して主の宣教命令を推進して行こうという取り組みです。

最後に、女性には人生の季節があります。それでも主の召しを受け、遣わされた女性教職が環境的に可能な限りどちらの働きにも用いられていきますように。

オンライン勉強会を行いました

9月27日(火)の午前にオンライン勉強会を行いました。曜日や時間帯によって参加が難しい方もいらっしゃると思いますが14名の参加がありました。教団総会に備えて教団総会議事運営に関するオリエンテーション資料と規則の説明、議員になったつもりで教団総会のロールプレイを行いました。沢山の新しい気づきを与えられた時間でした。

記:中里



室員たちのコロナ体験談

【自宅待機編】 中里恵美



まず夫に症状が出て、二日後に私も不調を感じました。陽性診断が出る前に、教会員に次の礼拝は完全オンラインにすると伝えました。感染が判明した次の週もひとりで教会に行き説教、奏楽とパウポと賛美、配信を行いました。誰にも接触していないので教会員の感染を心配せずに済みましたが、毎週慌ただしく礼拝を迎えないために、早めの準備、自分の説教動画を最低一つは準備しておく必要も教えられました。とはいえ実現はかなり難しいです(涙)。

【入院編】 林恵美子



焼けるような喉の痛みと割れるような頭痛、高熱と倦怠感で朦朧とし、息苦しい。酸素濃度は90を切り、求道者である医者からの指示で入院した。点滴の副作用、嘔吐と下痢で苦しむ。天国に行くのかとの思いが過った時、もう少し夫と共に人生を冒険したいと思った。閉所が苦手な、隔離療養が辛かった。夫が窓越しに会いに来てくれて、ラインと一緒に食事をし、励まされた。病室の窓から山に目を上げ、天地を造られた主の癒しを体験した。

"私は山に向かって目を上げる。私の助けはどこから来るのか。私の助けは主から来る。天地を造られたお方から。"
詩篇121篇1～2節 聖書 新改訳2017©2017新日本聖書刊行会

【宿泊療養編】 三箇豊実



夕方、久々の発熱。翌朝一旦熱が下がったが夕方から38℃を超えた。「まさか」と思いつつ3日目には完全に熱は下がる。ただ家庭内には医療従事者がいるため即座にPCR検査をうけ陽性診断。保健所の方との会話の中で、家族内や教会のメンバーにうつさないため、また自分が咳以外の症状もなかったので宿泊療養を希望した。発熱から四日目には指定のホテルへ移動し、そこから7日間の隔離生活。ホテルの部屋を出るのは食事時にお弁当を取る時と必要なものを受け取りに行く時のみ。休み、ストレッチし、お弁当を食べ続け、祈り、オンラインでの奉仕(説教・セミナー・祈祷会)も行った。約1ヶ月間むせ上がるような咳が続き会話や賛美も苦しかった。

学びのコラム

メルケル元首相に学ぶ女性のリーダーシップ

港南シオンキリスト教会 野川悦子



はじめに

アンゲラ・メルケルはドイツ連邦共和国において初めての女性首相です。05年～21年、4期16年間在位し、多くの足跡を残しました。その一部を紹介しながら女性のリーダーシップについて学びたいと思います。

1. 生い立ち

アンゲラは1954年に生まれ、福音主義教会の牧師であった父親の赴任に伴い生後間もなく東ドイツに移住し育ちました。

学校時代は目立たない生徒でしたが、成績は非常に優秀で、卒業後は物理学者となります。でも1989年35歳の時にベルリンの壁が崩壊したことを通し、科学アカデミーを辞職して政治家への道を進みました。今まで歩んできた

道と全く違うことをこの年齢から行うには勇気が要ることですが、できないと思う必要はないと教えられます。

メルケルが所属したCDU(キリスト教民主同盟)の主流はその時、男性、カトリック、法律家、西ドイツ出身でしたが、彼女は女性、離婚歴のあるプロテスタント、物理学者、東ドイツ出身でした。彼女は自分が周りとは異なっていたとしても、ひるみませんでした。36歳で初当選し女性・青少年問題担当相に抜擢され、その後も要職を歴任、CDUの初女性党首を経て05年51歳でドイツの首相に就任しました。

※次ページに続く

2. 初めと最後の評価

メルケルが初めて政治家として記事になった時の内容は、服の色や容姿などでした。当初彼女は内閣の旧東ドイツ出身者と、女性の割合を増やすための数合わせに過ぎないと見られ、「コール首相のお嬢さん」「東から来た灰色のネズミ」とまで言われます。

ところが彼女は首相になって「欧州の病人」と言われたドイツを経済大国によみがえらせます。ユーロ危機、ウクライナ危機においても、良い対応をしました。交渉の才能を発揮し、欧州の顔となったのです。

15年には100万人以上の多くの難民を歓迎し、ドイツに受け入れる方針を示しました。その背景には、聖書の隣人愛とナチスドイツへの反省があり、(自国の不支持もありましたが)世界から人道国家として称賛もされました。

21年の調査で実に75%が良い首相だったと回答しています。¹ 始めの評価とは全く異なったのです。

3. 土台にある信仰

信仰に関して彼女は繰り返しキリスト教であることを公言しました。そして欧州の人々の共通基盤としてキリスト教の意義を強調しました。

「教会が他者に向かって開かれ、隣人愛を求めること、人間は過ちを犯す存在であるけれど、助けられ守られる存在でもあることを認めること——こうしたこと全てが、社会に対する考え方を特徴づけ、その考え方に基づいて政治が行われるのです。」²

15年、南ドイツ新聞のインタビューでも次のように語っています。

「神に対する私の信仰はさまざまな政治的決断を助けてくれる」³ と。隠さず信仰の証をすることが、主が用いて下さる秘訣ではないでしょうか。

4. 人間力と女性への希望

多くの国民は彼女を「ムティ」(お母さん)と呼び、道徳心があり、善良で悪事には手を染めないと感じました。首相になってもベルリンの古い賃貸マンションに夫と住み、近くのスーパーで自ら買い物して料理し、余暇にはサッカーやオペラ、自然を楽しむ庶民と変わらない暮らしぶりが好感を持たれました。人柄の良さ、誠実な態度を挙げる人もいます。彼女は人間力を持っていたのです。そして特に女性に希望を与えました。

15年に日本を訪れたメルケルはこのように演説しました。「首相に就任したばかりの頃は、私への疑念もいろいろとありました。最初の選挙が一番大変でしたが、一回踏み出して女性でもうまくいくと分かると、それがだんだんと一般化していきます。前例さえできれば、いつかは当たり前前のことになるんです」

18年ドイツ婦人参政権100周年のスピーチでメルケルはこう述べています。「今の女の子たちが将来は大臣や首相になりたいという夢を語っても、もう笑う人はいないでしょう」

素晴らしい現実です。日本も女性が大臣や首相になることが当たり前になる、その時が来ることを思いながら、私達女性の献身者も主の栄光の為、さらに新たな分野にも用いてくださいと祈り行動していこうではありませんか。

1 独世論調査機関インフラテスト・ディマップ

2 フォルカー・レージング編『わたしの信仰 キリスト者として行動する』新教出版社、2018年、137頁。

3 <https://www.christiantoday.co.jp/articles/24495/20170925/angela-merkel.htm>



お詫びと訂正

Women in ministry第4号の教団人事表で、神山美由記師のお名前表記が間違っていました。お詫びして訂正させていただきます。

教職局
女性活躍推進室
室員紹介



室長 中里恵美



室員 野川悦子



室員 三箇豊実



室員 趙 善江



室員 林 恵美子